

全中社研会報

会長に就任して



全国中学校社会科教育研究会
会長 高岡 麻美
(府中市立府中第九中学校長)

全国中学校社会科教育研究会
 中 科 教 育 研 究 会
 全 中 社 研 (略称全中社研)
<http://www.zenchusya.com>
 発行者 高岡麻美
 編集者 竹口君夫
 八王子市立第二中学校
 TEL 042-624-2135

平成二十九年七月八日、徳島県徳島市において全国中学校社会科教育研究会第九十六回理事会で、会長に承認いただきました高岡麻美です。会長のつとめを果たすにははなはだ力不足と承知しておりますが、前石上和宏会長の後任として、微力ではございますが、会の発展のため、職務に励む所存です。どうぞ、皆様方のご協力とご支援をお願い申し上げます。

学校基本調査等によれば、全国の中学校の数は、約一万校、中学生の数は、約十二万人です。その中には、小規模校、大規模校、小中一貫校や地域運営学校等、また社会科教員が一人のところもあるでしょう。このとおり学校が置かれた状況は、様々でありま

分の一ありました。このことは、地域や学校の背景が違えども、日本の子供たちに社会科として身に付けさせなければならぬ力の方向性は、一つであるということが分かります。

このたび、平成二十八年度「研究紀要」から、全中社研に加盟いただいている皆様の会の研究主題を拝見したところ、五十団体のうち、「主体的に学ぶ」「協働的に学ぶ」に関連する言葉のべ二十一、「思考力・判断力・表現力」に関わる言葉のべ十四ありました。さらに「社会参画」に関わる言葉が、のべにして約五

分の一ありました。このことは、地域や学校の背景が違えども、日本の子供たちに社会科として身に付けさせなければならぬ力の方向性は、一つであるということが分かります。

今年三月に新学習指導要領が告示されました。今後各研究会で、新学習指導要領を踏まえた研究をさらに進められることと思えます。ぜひ、全中社研として、各地区の学びの成果をつなぎ、全国の子供たちに確固たる「平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を身に付けさせるために、いっそう連携を深めていけたらと思います。

本会の運営として、石上前会長が築き上げられた「発信する全中社研」を引き継ぎ、さらなる会の発展を目指して参ります。全国の皆様のお力添えを何とぞよろしくお願いいたします。

第50回全国中学校社会科教育研究大会 第3回中国ブロック中学校社会科教育研究大会

島根大会

大会主題

未来を拓く社会科学習
 ～深い学びを実現する思考力・
 判断力の育成～

期日 平成29年11月9日(木)～10日(金)

全中社研副会長・大会実行委員長
 (島根県松江市立本庄中学校長)
 片山 博子



大会を開催させていただき島根県社会科教育研究会にとっても、大会に携わることのできる教員にとっても大変光栄なことと思っております。これまでの本県の実践研究を基盤にし、新しい時代の社会科教育の方向性を少しでも全国に発信できればという思いで研究を進

知識も含め様々な視点や要因から複雑な課題に対応できる資質・能力の育成が重視されるようになり、社会科教員としての力量が益々問われるであろうと思えます。急速な社会の変化への対応、解のない社会的現象への対応は次代を生きる生徒にとって避けては通れない課題であり、生徒が生涯にわたって問い続け、よりよい社会を築こうとする思考力・判断力の育成が重要であると考えました。そこで本大会の研究では、思考力・判断力を4つの段階に分類し、生徒の発達段階に従い発展的に学習を計画した上で、思考力・判断力を深めることのできる単元構造の策定、知識の質の向上のための教師の教材に対する深い理解を研究の一視点として行ってきました。6つの授業公開、6つの提案発表を予定しています。

記念講演の講師はフィリピン日本人戦犯の助命嘆願活動を通して日本とフィリピンの友好の架け橋になった島根県安来市出身の画家加納莞蕾の「ご子息、加納佳世子さんです。島根の小さな村から世界平和に尽力した加納莞蕾の願い、次代に託す思いを全国の社会科の先生に知ってほしい。未来の子どもたちに伝えたい」という思いから、本県社会科研究会としてお願いいたしました。

社会科の教員としては心躍る文化と歴史にたくさん出会える島根へ、ぜひお越しください。全国の先生方とともに社会科について学び、ご指導いただきことを楽しみにしております。どうぞよろしく申し上げます。

第五十回記念大会全国中学校社会科教育研究大会・第三回中国ブロック中学校社会科教育研究大会を「神話の国」島根県で開催します。島根県での全国大会開催は、昭和五十四年度第一二回大会、平成九年度三十回大会に次いで三度目の開催となります。新学習指導要領が告示された後、最初の全国大会であり、このような時期に

研究主題を「未来を拓く社会科学習」副題として「深い学びを実現する思考力・判断力の育成」とし、生徒が実社会に出て活かすことのできる資質・能力、とりわけ思考力・判断力の育成に焦点を当てて研究実践を行いました。キーコンピテンシーの重視、すなわち単なる知識ではなく、

い課題であり、生徒が生涯にわたって問い続け、よりよい社会を築こうとする思考力・判断力の育成が重要であると考えました。そこで本大会の研究では、思考力・判断力を4つの段階に分類し、生徒の発達段階に従い発展的に学習を計画した上で、思考力・判断力を深めることのできる単元構造の策定、知識の質の向上のための教師の教材に対する深い理解を研究の一視点として行ってきました。6つの授業公開、6つの提案発表を予定しています。

第50回全中社研島根大会のご案内

島根大会事務局長
島根大学教育学部付属中学校 岡田 昭彦

島根大会実行委員会では、第五十回記念大会全国中学校社会科教育研究大会・島根大会を「神話の国」・島根県で開催します。

本大会は大会主題を「未来を拓く社会科学習」・深い学びを実現する思考力・判断力の育成」とし、「單元構造と問い」に着目し、研究に取り組んできた成果を公表いたします。授業公開は、三分野各二つずつの授業を行います。これまでの島根県社会科教育研究会中学校部局の取組に対して皆様からご指導いただけることを楽しみにしております。ぜひ、全国各地から多くの先生方がご参加くださいますようよろしくお願い申し上げます。

①開会式

②基調提案

前島 美佐江

③記念講演

講師 加納 佳世子氏

(島根県安来市)

加納美術館名誉館長

演題

「次世代に託す

平和への想い

―画家加納莞菴―

◇二日目

①公開授業Ⅰ

「環境問題から考える

南アメリカ州」

授業者・長谷川 孝志

(松江市立第一中学校)

②公開授業Ⅱ

「人口問題から考える

関東地方」

授業者・福原 直子

(松江市立鹿島中学校)

③分野別提案

隅田 和幸 (分野長)

(松江市立湖北中学校)

④研究発表Ⅰ

山本 悦生

(吉賀町立二日市中学校)

ふるさとの未来や私たちの

生き方を問う地理学習

⑤研究発表Ⅱ

光山 明典

(徳島県美馬市

立岩倉中学校)

社会的認識力・判断力を育

成する地理的分野の授業つ

くりと評価

⑥指導助言

大島 悟

(島根大学教職大学院准教

授)

⑦講評

濱野 清氏

(文部科学省教科調査官)

△歴史的分野▽

①公開授業Ⅰ

「成長する民衆」

授業者・種田 聡子

(松江市立第三中学校)

②公開授業Ⅱ

「広がる貨幣経済」

授業者・黒田 雅史

(松江市立湖南中学校)

③分野別提案

熱田 千鶴 (分野長)

(松江市立湖南中学校)

④研究発表Ⅰ

大前 裕子

(出雲市立斐川西中学校)

園山 真司

(出雲市立第三中学校)

未来を拓く社会科学習

⑤研究発表Ⅱ

高田 孝雄

(東京都足立区竹の塚中学

校)

松本 賢

(東京都昭島市立拝島中学

校)

「思考力・判断力・表現力

を育成する歴史学習のあり

方」

⑥指導助言

長岡 素巳

(島根県社会科教育研究会

前副会長)

⑦講評

藤野 敦氏

(文部科学省教科調査官)

△公民的分野▽

①公開授業Ⅰ

「民主主義とは何か」

授業者・小笹 寿美

(松江市立第二中学校)

②公開授業Ⅱ

「国際社会における国家

主権とは何か」

授業者・片山 峻

(松江市立第四中学校)

③分野別提案

神谷 享子 (分野長)

(松江市立本庄中学校)

④研究発表Ⅰ

安部 慎一

(美郷町立巨智中学校)

本物との出会いが学びの質

を高める社会科学習

⑤研究発表Ⅱ

中武 裕太

(山口県山口市立大内中学

校)

「主権者としての意識を

育てる授業の構想と展開」

⑥指導助言

熊谷 和夫

(島根県教育庁企画幹兼指

導主事)

⑦講評

樋口 雅夫氏

(文部科学省教科調査官)

島根大会事務局

〒六九〇-〇八二四

島根県松江市菅田町

一六七-一

島根大学教育学部附属中学校

(事務局長 岡田昭彦)

TEL〇八五二-二九一三〇〇

FAX〇八五二-二九一三二七

【島根大会申し込みHP】

<https://v3apollonrta.co.jp/shakaika2017>

最終案内と申込書は全中社

研ホームページ(全中社研

からのお知らせ)よりダウ

ンロードもできます。

第96回 全中社研理事会報告

全中社研事務局長

東京都荒川区立第九中学校長 水 井 雅 史

第九十六回理事会は、七月八日(土)、徳島県徳島市の「ホテルクレメント徳島」で開催されました。

冒頭、石上全中社研会長

の挨拶の中で、平成四十一年(二〇二九年)度以降の

全国大会開催地について提

案があり、事務局で慎重に

精査した結果の二〇四四年

度までの開催地についてご

承認いただきました。また、

「第五十周年記念誌」発行

についても、第五十一回徳

島大会での発行変更と、各

団体一万円の記念誌特別金

の納入についてお願いがあ

りました。

引き続き、前年度開催県

の堀井岡山県会長、今年度

引き続き、前年度開催県

の堀井岡山県会長、今年度

引き続き、前年度開催県

の堀井岡山県会長、今年度

引き続き、前年度開催県

の堀井岡山県会長、今年度

夏季セミナーに参加して

東京都板橋区立赤塚第三中学校 神戸 創志

全中社研・関プロ中社研 共催の夏季セミナーは、平成二九年八月七日(月)東京都新宿区立西新宿中学校で行われました。今回は、文部科学省初等中等教育局教科調査官、藤野敦先生を講師にお招きして、『次期学習指導要領における中学校社会科教育の目指す方向について』という演題でご講演をいただきました。藤野先生は、日本の教育現場から行政まで幅広く見てこられた方です。今回は、「アクティブラーニング」「カリキュラムマネジメント」の二項目を中心にお話をいただきました。最初の項目の「アクティブラーニング」は、次期学習指導要領の柱とされています。アクティブラーニングは「主目的で対話的で深い学び」と言われ、今日の情報化やグローバル化が進む社会の中でも、生きて働く知識・技能の習得や新しい時代に求められる資質・能力を育成することを目標とした学習方法です。藤野先生は、アクティブラーニングでは学びの量とともに質や深まりが重要であり、子供たちが「どの

ように学ぶか」についても光を当てて必要があるとの認識のもと、「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」を各教科で行い、「子供の学びに向かう力を引き出し、実社会や実生活に関連した課題などを通じて子供たちの学びへの興味と努力し続ける意志を喚起する必要がある」とお話しされていきました。また、中学校社会科の目標として、「グローバル化する国際社会に主体的に生きる社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する」があり、アクティブラーニングの考えが社会科の目標にも大きく反映されていることをお話しされていきました。アクティブラーニングの具体的な授業案として、公民的分野で「なぜ、市場経済があるのか、また、どのような機能があるのか」を問いにして、市場経済における価格の機能性や、生産・消費、需要と供給の関係性を主体的に調べることで、社会的な見方・考え方を身に付けさせるなど、実際の授業づくりに活用できるお話をいただきました。次の「カリキュラムマネ

ジメント」については、藤野先生は今まで基本的に管理(アドミニストレーション)の対象であったカリキュラム(教育課程)を「作り、動かし、変えていく」マネジメントの対象とするものとお話しされていきました。これからの時代は、学習指導要領どおりにカリキュラム(教育課程)を粛々と「執行」するだけではなく、「これまで積み上げてきた教育面、管理面での遺産を引き継ぎながら、学校・地域・社会全体が「よりよい社会を作る」という目標を共有していくことが今の学校には求められていくとお話されていきました。我々、教員は、地域・社会とのつながりを常に意識して、「なぜ、何を、どうやって、どのように」を合言葉に教育活動を行うことが重要と考えました。また、藤野先生はカリキュラムマネジメントを実践していくために、学校現場にPlan(①) - Do(②) - Check(③) - Action(④)のPDCAサイクルの確立が重要とお話されていました。各学校の企画・職員会議だけではなく、学校支援地域本部など地域・社会と一体になってカリキュラムマネジメントを考え、その成果を評価し、実際に教育活動を行う教師が生徒の現状の課題を把握して今の学校に必要な教育目標を見直していくことなどが必要になっていくと思われました。藤野先生は、実際に現場で教鞭を執っていた経験から今日の教育現場に適切にたお話をされていきました。また、藤野先生のお話からは日本の教育の更なる向上、そして子どもたちの成長のために日々奮闘していることが感じられ、自分も生徒のために更に自己研鑽に励みたいと思いました。藤野先生から以上のような素晴らしいお話を聞きする機会をいただき、心より感謝いたします。

平成29年度 全中社研新役員

Table with 2 columns: Position (e.g., 会長, 副会長) and Name (e.g., 東京 高岡 麻美, 山口 優).

Table with 2 columns: Position (e.g., 理事, 常任理事) and Name (e.g., 九州 伊東 陽一, 東京 石上 和宏).

ご退転

ご退職の方も含みます。

Table with 2 columns: Position (e.g., 会長, 副会長) and Name (e.g., 東京 石上 和宏, 石川 吉川 厚人).

Table with 2 columns: Position (e.g., 理事, 常任理事) and Name (e.g., 九州 伊東 陽一, 東京 石上 和宏).

編集後記

第50回全国中学校社会科教育研究大会 徳島大会
 ○大会主題 「未来を拓く力を育てる社会科学習
 ～知の構築・深化・創造～」
 ○期 日 平成30年11月8日(木)・9日(金)
 ○開催地 徳島県徳島市
 ○会場 第一日 あわぎんホール
 第二日 ホテルクレメント徳島
 アステイとくしま

今号は、七月に徳島県徳島市で行われた理事会で就任された高岡麻美会長を中心とする新役員のご紹介と十一月に鳥根県で開催される全国大会のご案内を中心に構成を致しました。

昨年度に続き、海外巡検が実施されました。ここで、参加された札幌市立篠路中学校長の淡路尚広様より報告をさせていただきます。

8月20日午前、石上前会長、高岡会長他17名(添乗員1名)は成田を出発、夕刻、カンボジアのシエムリアップに到着しました。

よる修復工事中で、仮道から入場。そこでスクールに遭遇するも、内部見学中のため事無きを得、夕日に輝く壮大な伽藍に架かる虹に出会う幸運にも恵まれました。

この国を語る時に避けられない過去の内戦。今は仏教寺院となつている刑務所跡地、キリングフィールド。当時の建物が一部残り、慰霊塔に安置された数千もの遺骨は衝撃的でした。また、郊外の「地雷博物館」には、処理された約5万個の地雷や不発弾などが展示され、今も400万個以上が残り、人々を傷つけ、国土の発展を妨げる地雷の恐さを訴えています。創設者アキ・ラー氏の地雷処理活動を熱く語る日本人ボランティアの川広 肇氏の言葉が心に響きました。

その後、地域の組合長宅で、農業の現状を見聞し、世界で最も多くの水上生活者が暮らすトンレサップ湖へ。住宅の他、様々な施

設が並び、タクシー(ボート)が行き交う水上は街そのもの。「不便はない」と話す訪問先の若い夫婦宅には大型バッテリーにつながれた液晶テレビと携帯電話が辺に建つアンテナと真新しい水上寺院は何とも象徴的。最後に小学校を訪問。短時間の交流後、私たちは「故郷」を歌い、そこを後にしました。

憧れの世界遺産。今も影を落とす悲劇の時代。復活したアプサラダンスや影絵芝居。穏やかに見える農村や水上での暮らし。猥雑で喧噪に満ちた街。発展途上の現実とある種のエネルギーを感じながら、日本を振り返る貴重で充実した時間となりました。このような機会を設けていただいた石上前会長をはじめ、4日間を共にした皆様への感謝を胸に、視察旅行の報告とさせていただきます。

最後になりましたが、ご多用の中、原稿を頂きました皆様に改めて感謝申し上げます。

次号は、鳥根大会の報告を中心に編集致します。
 広報部次長 野田 博之

金融リテラシー(お金の知識・判断力)が身につく教材(無償)のご案内

大好きなアーティストから考えるあなたと銀行のかかわり



- 【テーマ】
- ・「為替(振込)」、「預金」のはなし
 - ・「貸出」、「資金仲介」のはなし
 - ・「住宅ローン」、「外国為替」、「金融」のはなし
 - ・社会と銀行のかかわり
 - ・銀行員インタビュー

自分の買い物や銀行や経済とどのように関わっているのか…中学生にとってまだ馴染みのない「金融」について、身近な例を用いてわかりやすく解説。金融や銀行のしくみについて理解を深めることができる授業プログラムを複数掲載。

教材の特長

○学校ニーズに応じたプログラム構成
 教科書と連動した「ベーシックプログラム」と、理解を深める学習活動を組み込んだ「アドバンスプログラム」とを組み合わせて活用可能(各プログラムは1時間からそれぞれ実施可能)。

○思考力・判断力・表現力の育成
 銀行の立場や融資を受ける企業の立場に立って考えるロールプレイングやディスカッションを通じて思考力・判断力・表現力を育成。

○キャリア教育的要素
 銀行の三大業務の理解を深めるとともに、働く人々の思いや工夫を知るキャリア教育の視点も組み込んだ映像教材を提供。

生活設計・マネープランゲーム



- ・アクティブ・ラーニング型の授業用教材で、生活に必要な資金のことを楽しみながら学べます。
- ・グループでの話し合い、結果の発表、他のグループとの結果共有による新たな気づきなど、生徒の能動的な活動を引き出します。

人生には様々な選択があることに気づくと同時に、計画性を持って生活していくことの大切さを体感するカードゲームです。4～5人の班で行うグループワークで、生徒が主体的に取り組むことができます。

詳しくは、WEBサイト「教育関係者向けページ」をご参照ください。

また、WEBサイトからお申込みもできます。⇒ <https://www.zenginkyo.or.jp/education/> または

